

さあ、みんなで意識を変えましょう！
「生徒指導提要」の正しい理解を！



生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が「自己指導能力」を身に付けることが重要です。



特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校教育の目標の実現に向けて行う、「発達支持的生徒指導」への意識を高め、実践することが大切です。

◆ 生徒指導実践上の視点

- (1) **自己存在感の感受**
「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感する
- (2) **共感的な人間関係の育成**
自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係を早期に創りあげる
- (3) **自己決定の場の提供**
自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験をさせる
- (4) **安全・安心な風土の醸成**
お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らが作り上げるようにする

詳細は、デジタルテキストを活用して確認してください。



◆文部科学省ホームページにて活用ガイドも公開中

◆ 教職員の同僚性・教科指導と生徒指導の一体化

【教職員集団の同僚性】

【2軸3類4層構造】

【授業】

- ◆ 全ての教職員による共通理解・共通実践
- ◆ PDCAサイクルに基づく運営

困難課題対応的生徒指導
日々への対応（事案への対応）

課題早期発見対応
日々の取組（アンケートや相談等）

課題予防的生徒指導

課題未然防止教育

日々の取組（道徳、学級活動等）

発達支持的生徒指導

- ・安全安心な居場所づくり
- ・認め合える学級
- ・わかりやすい授業づくり 等

基本・土台

- ◆ 全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場

教科指導と生徒指導の一体化した授業づくりを目指して

- ◆ 自己存在感の感受を促進する授業づくり
- ◆ 共感的な人間関係を育成する授業
- ◆ 自己決定の場を提供する授業づくり
- ◆ 安心・安全な「居場所づくり」に配慮した授業

教師による「居場所づくり」
児童生徒による「絆づくり」

魅力ある学校づくり

◆ チーム学校を実現するための4つの視点 (p70)

- (1) 教員と専門スタッフとの連携・協働の体制を充実させる
- (2) 校長がリーダーシップを発揮し、学校のマネジメント機能をこれまで以上に強化する
- (3) 業務の改善やメンタル対策等に取り組み、教員が持てる力を発揮できるようにする
- (4) 教職員間に「同僚性」を形成する

同僚性については、「生徒指導提要P28」で詳しく確認しましょう。



◆ 教育相談活動の全校的展開について (p80)

■ 課題予防的教育相談

- 1 全ての児童生徒を対象に、ある特定の課題等の未然防止を目的に行われる教育相談
- 2 ある課題等の兆候が見られる特定の児童生徒を対象として行われる教育相談 (早期課題発見対応)

【困難課題対応の生徒指導】

【課題早期発見対応】

【課題予防的生徒指導】

【課題未然防止教育】

【発達支持的生徒指導】

■ 困難課題対応的教育相談

困難な状況において苦戦している特定の児童生徒、発達や適応上の課題のある児童生徒を対象にした教育相談

↓
ケース会議等を実施し、SC、SSWの専門性を生かしながら、組織的に行うことによって課題解決を目指す。

■ 発達支持的教育相談

全ての児童生徒を対象に、様々な資質や能力の積極的な獲得を支援する教育相談活動 [成長・発達の基盤をつくるもの]



◆ 生徒指導に関する法制度等の運用体制 (p101)

校則について



児童生徒が遵守すべき学習上、生活上の規律として定められる校則は、健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために設けられるものです。

校則に違反した場合などには、違反に至る背景など児童生徒の個別の事情や状況を把握しながら、内省を促すような指導をしましょう。



「何のために設けた決まりであるのか、教職員が理解しつつ、児童生徒が自分事として意味を理解して自主的に守るように」指導していくことが重要です。
※ 学校のホームページ等に公開しましょう!



◆ 生徒指導に関する法制度等の運用体制 (p105)

不適切な指導について

〔不適切な指導と考えられ得る例〕

- 大声で怒鳴る、ものを叩く・投げる等の威圧的、感情的な言動で指導する。
- 児童生徒の言い分を聞かず、事実確認が不十分なまま思い込みで指導する。
- 組織的な対応を全く考慮せず、独断で指導する。
- 殊更に児童生徒の面前で叱責するなど、児童生徒の尊厳やプライバシーを損なうような指導を行う。
- 児童生徒が著しく不安感や圧迫感を感じる場所で指導する。
- 他の児童生徒に連帯責任を負わせることで、本人に必要な以上の負担感や罪悪感を与える指導を行う。
- 指導後に教室に一人にする、一人で帰らせる、保護者に連絡しないなど、適切なフォローを行わない。